2026 年 11 月 20 日

各 位

株式会社大和証券グループ本社
大 和 証 券 株 式 会 社
株 式 会 社 大 和 総 研

AI エージェントによるオンチェーン取引の実証実験に成功
～人の承認を経た取引実行と事後検証可能な取引記録を実現～

株式会社大和証券グループ本社（代表執行役社長：荻野　明彦、以下「大和証券グループ本社」）、大和証券株式会社（代表取締役社長：荻野　明彦、以下「大和証券」）および株式会社大和総研（代表取締役社長：望月　篤、以下「大和総研」）は、複数の AI エージェント[1]が連携し、人による事前承認のもとでブロックチェーン[2]上のテスト用トークンの交換取引を実行する実証実験（以下「本実証実験」）を実施し、AI エージェントによる取引の実行から事後検証可能な記録までの一連の流れを実現しました。

1. 本実証実験の背景および概要

近年、生成 AI の高度化に伴い、AI エージェントが人の指示に基づいて情報収集、判断および外部システムとの連携を行うユースケースが広がっています。また、金融分野では、証券や決済手段のトークン化が進展しており、将来的には AI エージェントが金融サービスを利用する場面が増加する可能性があります。

大和証券グループ本社、大和証券および大和総研は、こうした環境変化を見据え、AI エージェントを活用した金融取引に関する技術的な実現性や課題を把握するため、本実証実験を実施しました。

本実証実験では、自然言語による指示を受けた AI エージェントが、人による承認を経た上で、本実証実験用に作成したテスト用ステーブルコイン[3]とテスト用セキュリティトークン[4]の交換取引を実行し、その一連の過程を事後に検証可能な形で記録しました。

■ 本実証実験における各社の役割

会社	主な役割
大和証券グループ本社	● 大和証券グループ横断のデジタル戦略・AI 戦略の推進 ● AI エージェント時代を見据えた事業機会・将来構想の検討
大和証券	● AI エージェントを活用した将来の証券サービスに関するユースケースの企画 ● 業務要件および管理・統制要件の整理 ● 人による承認プロセスやガバナンスの検討 ● AI エージェント時代における法務・コンプライアンス上の論点整理
大和総研	● 本実証実験全体のシステムアーキテクチャ設計 ● AI エージェント機能の実装、検証環境の構築 ● 行動証跡・監査ログ管理機能の実装

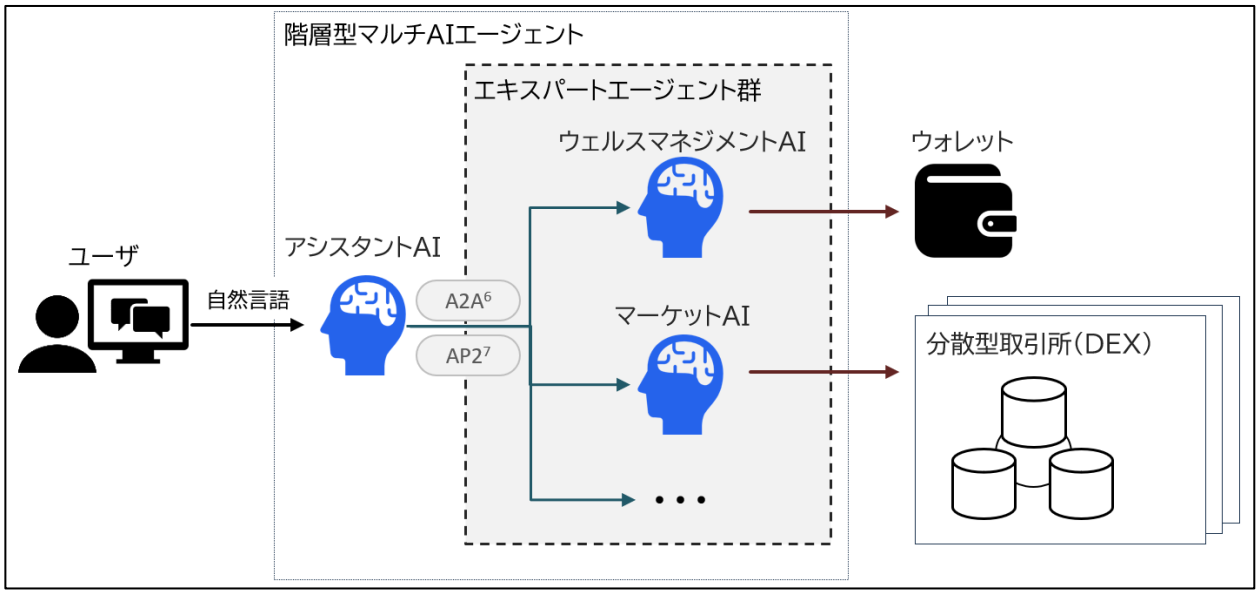
2. 本実証実験で確認した主な事項

本実証実験では、以下の事項について技術的な実現性を確認しました。

- 自然言語による指示を起点とし、複数の AI エージェントがそれぞれの責務に応じて協調・連携することによる、複数の分散型取引所（DEX[5]）をまたいだ取引
- 人による承認を必須とする統制のもとでのテスト用トークンの交換取引
- AI エージェントへの指示内容・人による承認・取引結果の 3 点を相互に関連付けた記録による、事後の検証
- AI エージェントが実行可能な取引内容や条件の制御

AI エージェント間の連携や、AI エージェントによるトークン取引、取引の事後検証といった、AI エージェントによるオンチェーン取引の中核となる領域については、特定の企業に依存する規格ではなく、オープンな規格を採用して実現しました。

■ 本実証実験のシステム構成イメージ



3.　設計方針（人による事前承認と事後検証可能な取引記録）

本実証実験では、AI エージェントが取引を実行する場合であっても、必ず人による承認を介在させる設計としました。

また、AI エージェントへの指示内容、承認内容および取引結果を関連付けて記録し、取引の経緯を事後に確認できる仕組みを検証しました。これにより、AI エージェントが金融サービスを利用する将来を見据えた際に求められる透明性や説明可能性の確保に向けた基礎的な知見を得ました。

■　AI エージェントによる取引候補の提示と、ユーザによる選択・承認画面のイメージ



※画面内の「TST1」「TST2」はテスト用トークン、「TSC」はテスト用ステーブルコイン、「Test DEX1」「Test DEX2」はテスト用 DEX を示す名称であり、いずれも検証用に設定したものです。また、表示されている数値はすべてサンプルです。

4. 今後の検討事項

本実証実験では、社内の検証環境に構築した複数の AI エージェントが連携し、人による承認を経て取引が実行され、その過程を記録できることを確認しました。

今後は、法令・規制、社内規程、リスク管理およびガバナンス上の要件を踏まえながら、AI エージェントに委任できる業務範囲、人による関与のあり方、記録・監査の仕組み、外部システムや外部の AI エージェントとの連携の可能性、AI エージェントによる指示・執行に関する責任の所在、顧客保護、本人確認、マネー・ローンダリング対策等の法的・規制上の論点などについて、段階的に検討を進めてまいります。

大和証券グループ本社、大和証券および大和総研は、本実証実験で得られた知見を基に、実用化に向けて技術面における更なる研究を進めるとともに、法務・コンプライアンス・ガバナンスの観点からも検討を進め、AI エージェント時代における証券サービスのあり方や管理態勢を検討してまいります。

なお、本実証実験は技術的な実現性と課題の把握を目的とするものであり、現時点で具体的な商品・サービスの提供を決定したものではありません。

以　上

---

[1] AI エージェントとは、目標達成に向けて情報収集や判断を行い、外部システムやサービスと連携してタスクを実行する AI システム。本実証実験では、取引実行前に人による承認を得ることを前提としている。

[2] ブロックチェーンとは、取引データをブロックと呼ばれる単位で管理し、チェーンのように繋げることでデータを時系列順に保管する技術。参加者全員が同一取引データを持ち合う分散型台帳技術を用いてデータを管理している。

[3] ステーブルコインとは、法定通貨等に価値を連動させることを目指すデジタル資産の一種。本実証実験で用いたテスト用ステーブルコインは検証目的で作成したものであり、実際の通貨や資産を裏付けとするものではない。

[4] セキュリティトークンとは、ブロックチェーン技術を用いて発行・管理されるデジタル証券。本実証実験で用いたテスト用セキュリティトークンは検証目的で作成した架空のものであり、実際の有価証券ではない。

[5] DEX（Decentralized Exchange ：分散型取引所）とは、ブロックチェーン上に構築されたトークン化資産の取引所。

[6] A2A（Agent2Agent Protocol）とは、AI エージェント同士が通信・連携するためのオープンな規格。

[7] AP2（Agent Payments Protocol）とは、AI エージェントがユーザに代わって取引・決済を行うためのオープンな規格。